

令和4年度 綾瀬市立綾南小学校 学校関係者評価報告書

綾瀬市教育委員会の基本方針	(学校教育分野) 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども	
学校教育目標	温かい未来を創造する人材(財)の育成 ・よく学び(実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」の習得) ・よく考え(道の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成) ・高めあう子(学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の育成)	
学校経営方針 (ランドデザイン)	<div style="text-align: center;"> <p><b>令和4年度 綾瀬市立綾南小学校ランドデザイン</b></p> <p>The diagram illustrates the school's management strategy. At the top, it states the goal of creating a warm future for all children. Below this, it lists three main goals: 'learning well', 'thinking well', and 'growing together'. A central focus is on 'cultivating the ability to live' (生きる力を育む), which is supported by 'solid academic skills' (確かな学力) and 'healthy bodies' (健やかな身体). At the bottom, it emphasizes 'rich hearts' (豊かな心), defined as the ability to engage proactively, non-cognitive skills, and self-affirmation. The strategy is supported by various factors: teacher expectations (basic skills, learning enjoyment, relationships, social norms, school subjects, GIGA schools, curriculum management), children's actual conditions (straightforwardness, high school habits, learning habits, mental health, environmental factors like local cooperation and safety), and school management (GIGA schools, curriculum management).</p> </div>	
今年度の重点目標	「生きる力を育む」 ・確かな学力 ・健やかな身体 ・豊かな心(前向きに取り組む力・非認知能力・自己肯定感)	
取組分野	評価の観点	学校の自己評価と改善策
1 学習指導	学校は、「よく学び(実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」)」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。	児童の9割が「そう思う」「ややそう思う」と回答しており、昨年度の84%から91%とポイント数が向上しています。教職員が指導の工夫や改善を組織として継続的に取り組んできたためと考えられます。今後も児童のつまづきに向けた授業改善を行い、児童や保護者が学習意欲の向上を実感できる授業づくりを目指していきます。
2 教育課程	児童は、学校行事やクラブ活動、委員会活動、係活動に積極的に参加している。	運動会やクラブ・委員会活動、学級の係活動では、児童が主体的に行動できるように支援し、行事や特別活動の活性化を図っています。異学年交流活動の「にこにこタイム」では、どの学年の児童も楽しく交流できるように、高学年が工夫し児童主体で運営しています。今後も、学校行事や特別活動、異学年交流活動の取組を通して、児童が安心して過ごせる学校環境を目指していきます。
3 児童・生徒指導	学校は、「よく考え(未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」)」を育てる指導を積極的に進めている。	互いに認め合うことは児童同士の人間関係をよりよいものにし、学習や生活において友だちと協力して行動する経験が、楽しい学校生活の基盤となります。各教科の時間、学級活動、児童会活動、異学年交流、行事などを通して、互いを認め合い、協力して行動しようとする心情を育てる取組の充実をさらに図っていきます。
4 児童・生徒指導	児童は、友人や先生との学校生活に満足している。	学校生活を楽しんでいる児童が半数を超えており、学級が一人ひとりを認め合い居心地のよい安心できる場所作り、仲間作り、授業作りを行い、支援したことが反映されていると思います。しかし、その反面、悩みや不安を抱えている児童もいます。どの児童も笑顔で学校生活が送れるように、毎日の観察や声かけ、授業改善を積極的に行い、支援していきます。
5 児童・生徒指導	学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。	6割の保護者が「そう思う」「ややそう思う」と回答し、いじめの早期発見・再発防止の取組が概ね理解されています。しかし、教職員と保護者の認識の差が大きいため、保護者へのより一層の情報発信に努めていきます。
6 保健管理	学校は、「高めあう子(学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」)」を育てる指導に積極的に取り組んでいる。	学習では、見通しをもって取り組めるよう、めあてや学習の流れを明らかにする等の手立てをすることで、授業への参加促進につながりました。また、今後も体育科の授業を通して、児童に体を動かすことの心地よさを体感させ、進んで運動に取り組むような声かけを積極的に行っていきます。
7 安全管理、教育環境整備	学校は、児童の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。	児童の安全のため、緊急時の避難の仕方については、今後も様々な場面を想定して指導していきます。廊下や階段の歩行については、児童の事故に繋がらないように、日頃から児童の様子を丁寧に観察し、学校全体での指導を続けていきます。また、安全な環境づくりについては、今後も些細な変化を見逃さず、全職員で施設や設備の点検を毎月行い、異常を認めた場合には教育委員会に報告しながら、安全対策に努めていきます。
8 支援教育	学校は、児童に応じた支援の工夫をしている。	教職員、保護者、児童本人のニーズに応じてケース会議を開催したり、面談を行ったりしながら、チームによる組織的な対応を行ってきました。今後も、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、外部機関との連携を図り、全職員で児童情報を共有しながら適切な支援を行うことができるように努めていきます。
9 組織運営	学校は、校長を中心とした運営組織となっている。	校長の学校経営計画の下、学校教育目標を念頭に学校運営を進めることができました。今後も校長を中心とした運営組織の中、前向きに業務にあたるとともに、カリキュラム・マネジメントの視点に立ち、PDCAサイクルを確立させていきます。そして校長を中心とした組織の活性化をさらに図り、よりよい学校づくりに努めていきます。

10 教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。	今後も校内研究を通して、教師間の指導力向上、共通理解を図るとともに、日々の授業に生かすことができるようにしていきたいと思います。また、教育に関する最新の動向や教職員のニーズを基に、児童の指導に反映されるよう研究・研修計画を立案していきます。実施形式についても講義形式だけでなく座談会形式や実技講習など、教職員も意欲をもって学び続け、力量を高められるような内容となるよう工夫や改善に努めます。
11 教育目標・学校評価	学校は、児童の実態を把握し、よりよい児童の成長のための工夫をしている。	7割以上の保護者が、「そう思う」「ややそう思う」と回答しています。今後も学校全体で、きめ細かい情報交換や共通理解を図り、児童一人ひとりのよりよい成長に向けて、適切な支援を行えるように努めていきます。
12 情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。	お便りや授業参観・懇談会、家庭訪問、個別面談、PTAの各種会議等を通して、学校の教育活動や児童の様子を具体的に伝えることに努めました。今後も保護者、PTA、地域の方々と協力・連携して児童の健全な育成に努めていきます。そのためにも、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の推進を図り、教育に対する課題や目標を共有して取り組んでいくことができるようにしていきます。
<p><b>【学校運営協議会からの意見及び改善策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめの早期発見・再発防止のための取組について、保護者と教職員の認識に差がある。このことについて、様々な問題が学校外で起きていることにも起因していると思うが、今後も小さな芽に対して一つ一つ対応をしていき、いじめの芽を見逃さない努力・組織作りに努めてほしい。また、様々な問題が低年齢化しているので、SNSなどの問題については、外部講師等を活用して保護者への発信・周知をしていくことも必要である。</li> <li>・安全面における様々な取組をしているところではあるが、登下校中の災害についても検討してほしい。「あやせ110番の家」について、毎年度行っている保護者への周知に加え、児童への指導も行うと良いのではないかな。</li> <li>・保護者・地域との連携について、コロナ禍の現状でPTA役員ですら関わりが薄い状況にあるが、保護者と教員がコミュニケーションを図ること、同じスタンスで子どもの支援ができていくのだと考える。コミュニケーションを図る機会を増やし、互いを知っていくことが必要である。地域については、学校運営協議会等でも検討・活用していく。</li> </ul>		